

## 島本啓子研究員が日本化学会学術賞を受賞しました

(平成 26 年 3 月 28 日)

当財団 島本啓子研究員が日本化学会から第 31 回学術賞を授与されました。

受賞タイトルは「興奮性神経伝達機構ならびに膜挿入機構の生物有機化学的研究」です。島本研究員はこれまで、生理活性アミノ酸や糖鎖の合成を鍵として、有機化学の視点から独自の生命科学研究を展開してきました。今回の受賞は、

- ① 記憶や学習に関わる神経伝達機構を正確に調べるための新しい研究試薬を開発した
- ② タンパク質でないのに酵素のようなはたらきをする糖脂質の構造を決めた

の 2 点が高く評価されたものです。



日本化学会玉尾皓平会長から楯の授与

学術賞は、化学の基礎または応用のそれぞれの分野において先導的・開拓的な研究業績をあげた者で、論文の数というよりは、論文は少数でも優れた業績をあげた者に授与される賞です。生有研としては、第 7 回（平成元年度）の納谷洋子氏（元副所長）に続く快挙となりました。

3 月 28 日に化学会第 94 回春季年会（名古屋大学）にて授賞式が執り行われ、玉尾皓平会長から楯が贈られました。29 日には受賞講演もあり、多くのケミカルバイオロジー研究者や学生達で会場がいっぱいになりました。

ケミカルバイオロジーは小分子を鍵として生命科学を研究していく学問ですが、この言葉が生まれる前から、生有研では「化学の言葉で語る生命科学」を目指してきました。今回、新たな化合物の設計と合成で神経科学の進展に寄与したこと、膜タンパク質が膜に挿入される際にはたらく分子の構造を明確にしたことが、受賞に値すると認められました。分子生物学的手法が主流の生命科学において、生物有機化学の手法を活かした研究が評価されたことは、生有研にとって大きな励みとなりました。